

岐阜県森林研究所はこのほど、耐久性を必要とする治山ダムなどの治山構造物への木材活用について、同所が東京農工大学等と共同で取り組んできた研究成果を「木製治山構造物技術指針」として取りまとめた。同指針の活用により耐久性の高い木製治山構造物が実現でき、県産材の利用拡大が期待できるとしている。

治山構造物は、山地

荒廃の予防・復旧のために建設される治山ダムなどの工作物で、大半がコンクリート製となっている。これに対し自然素材を使用する

木製治山構造物は、環境に優しく、木材利用拡大につながる。積極的な導入が期待されているが、耐久性が必要で、木材の劣化

木製治山構造物の設計・施工などに必要な技術情報を掲載している。同指針を活用することで、経済的で合理的な木製治山構造物の

材の劣化を考慮した設計法を提案することも。同構造物の点検や維持管理の手法を具体的に提示し、耐久性を

高める手法としては保存薬剤を加工注入した木材の使用を提示している。同指針のPDFファイルは、岐阜県森林研究所のホームページから入手可能。詳細はダウンロードページ

木製治山構造物技術指針を作成

土木分野の木材利用促進

岐阜県森林研究所

今回の指針では、これまで困難だった「木製構造物の機能や性能の劣化にともなう耐久性の評価方法」など、耐久性を期待する。また、腐朽など木



施工された木製治山ダム

イルは、岐阜県森林研究所のホームページから入手可能。詳細はダウンロードページ (http://www.forest.tu.pref.gi-fu.jp/mnyu.html) を参照。